

SNSで広がる「プレ花嫁活動」 業界に変化促す

2018年10月26日 9:06 [有料会員限定]

結婚式を控えた花嫁がSNS（交流サイト）で情報収集する「プレ花嫁活動」が広がっている。写真共有サイト「インスタグラム」の関連投稿は約380万件を超え、ドレスや会場選びなどの経験や悩みの共有に生かされている。「貸したドレスが返ってこない」など気軽さゆえのトラブルも起きているが、料金などが不透明だったブライダル業界に変化を促す効果もあるようだ。

「ドレス試着レポ12着目。大人っぽくてステキだったけど、レンタル代が予算に合わず...」

2017年10月に結婚式を挙げた関西地方に住む永野彰子さん（32）がピンク色のドレス姿の写真をインスタグラムに投稿すると「お似合いですよ」「型番はわかりますか？」といった反応が寄せられた。永野さんは結婚式までの経過を約400回にわたって投稿。「自分の式準備の情報が誰かのためになるといいなと思った」と振り返る。

「費用はどのぐらい自己負担しますか？」「見積もりから200万円近く上がっています」など、金銭面の悩みは結婚式を終えた“卒花嫁”が具体的に助言。

「旦那が手伝ってくれないので一人で準備。式をやめたい」という投稿にマリッジブルーの女性たちが励まし合う場面もある。

SNSはドレスなどの貸し借りや売買の舞台にもなっているが、トラブルも起きている。東京都内のあるレンタルドレス店には「ドレスを貸したら自分の式までに返ってこなかった」「返品不可の条件で譲ってもらったが汚れや傷みが予想以上」などで駆け込む花嫁が相次ぐ。

現場も対応に苦慮する。都内の式場で働く20代女性は「明細書の中身やスタッフの評価まで共有されてしまうので、プレ花嫁活動をしている女性は職場内で注意している」と内情を明かす。「他の花嫁さんは0円だった。0着試着させてもらっていた」と言われることもあり「日程や予算に合わせて対応しているので全員に均等な対応は難しい」とため息をつく。

背景には、婚姻件数の減少にもかかわらず、トラブル件数が高止まりしている現状がある。全国の消費生活センターに寄せられた結婚式を巡る相談は17年度で1400件以上で、約9割が契約関連。「今契約すれば100万円割引する」と迫られて契約した後、解約を申し出たら説明のなかった解約金を要求された事例も。国民生活センターの担当者は「事業者と消費者の情報のギャップが一番の課題」と話す。

ただこうした活動はブライダル業界に変化を促している。結婚情報アプリ「ウェディングニュース」を提供するオリジナルライフ（東京・港）の榎本純社長は「ブラックボックス化されていた料金や評価が共有され業界も変化してきた」と指摘する。

婚礼大手のテイクアンドグヴ・ニーズは、インスタグラムの情報で訪れる顧客が半数を占めるという東京都渋谷区内の式場で「（通常の倍の）7か月にわたって打ち合わせし、相互に理解を深めるようにしてい



インスタグラムで「プレ花嫁」の投稿を検索すると様々な写真が見られる

(担当者)。挙式費用が最初からオープンな「会費婚」を展開するアールキューブ（東京・渋谷）の山崎令二郎社長は「挙式を諦めようとしていた人も明朗会計、低価格なら安心して式を挙げてもらえる」と話す。

関連キーワード: インスタグラム 永野彰子 SNS テイクアンドギヴ・ニーズ 花嫁